

# 日本看護歴史学会

## 会報

日本看護歴史学会  
第40号  
2003年7月8日

### 第十七回日本看護歴史学会大会開催

#### 日本の看護戦後史を 追求する

ライダー 島崎玲子

看護歴史に興味を持ったのは一九六〇年代コロンビア大学ティーチャーズカレッジにおいて「カリキュラムと教授法」という科目を取った時である。これを機会に、私は日本の看護教育のカリキュラムの変遷を調べてみようと思いついた。ワシントンの国立図書館やコロンビア大学の図書館、ロックフェラーArchivesには占領軍によって書かれた議事録や第二次史料が多く眠っていた。史料を発掘した時の喜びや楽しさが、博士論文のテーマに「看護の戦後史」を選ぶ動機となった。

コロンビア大学の Teedmann

教授による「日本歴史・江戸末期から日本国憲法公布まで」という日本歴史の科目は、異邦人から見た日本の歴史であり新鮮であった。明治時代の軍国主義とナショナリズムの台頭、それらの社会現象と看護の出来事を重ねて分析すると歴史に興味が湧いてきた。明治時代の政治、社会、教育の変革、看護教育が米国のリンダ リチャードをはじめとする米国の看護婦の指導者によって発達したことや、第二次世界大戦後の看護教育の発展が、米国の看護教育制度や米国人の看護婦の影響だったことが判明した。

歴史の定義は今まで多くの人々が論議してきたが、最も一般的

なもの人間の好奇心を満たすと  
言うことであつた。また Lewis  
Zanier は、歴史学者が関心を持  
っているのは過去に起こった人間  
の行動で、歴史そのものは行動を  
起こしている人間であり、それに  
伴う人間の具体的な思考や人間の  
感情にも関わっていると説明して  
いる。私は日本の看護の戦後史を  
追求していく中で看護政策の決断  
過程で、この改革に参画したサム  
ス准将、オルト少佐、オルソン看  
護婦の医療や看護に関する理念や  
考え方が、また彼らの人間性が改  
革活動の中に強く反映しているこ  
とを学んだ。戦前は入院した患者  
の看護は家族の役割であつた。占

領軍の看護婦は、患者のケアは  
看護婦ですること、患者中心の  
看護という考え、看護とは「科  
学、芸術、専門職である」とい  
う理念を日本の看護婦達に執拗  
なまでに指導した。当時の日本  
の看護婦もまた彼らの指導に答  
えるかのように努力して、現在  
の看護の基礎を作つた。

これらの先人の残した考え方  
は、現在の目まぐるしい医療の  
現場で生かされているだろうか。  
とかく科学的な看護が強調され、  
技術や人間性のある看護が忘れ  
られているのではないか。今回  
の学会で、ぜひ尋ねて欲しいと  
思うのである。



- 青森市まで (平成14年12月1日現在)
  - JR  
東京駅から青森駅まで約4時間  
(東北新幹線「はやて」及び特急「スーパー白鳥」、「白鳥」、「つがる」)
  - 飛行機  
札幌便、東京便、名古屋便、大阪便、広島便  
福岡便
  - 青森市内
  - 青森駅から約7km
    - ・青森市営バス(戸山団地・沢山線)
    - 県立保健大学前バス停まで…約20分  
(バス停から徒歩約1分)
    - ・車(タクシー)で…約15分
  - JR東青森駅から徒歩で…約10分(約1km)
  - JR小柳駅から徒歩で…約10分(約1km)
- 青森県立保健大学  
〒030-8505 青森市大学浜館字間瀬58-1  
TEL 017-765-2000 (代表)

# 日本看護歴史学会第十七回大会

つぎの要領で開催します。

大会テーマ 看取りの文化 ―古代から現代へ―

日時 平成一五年九月五日(金) 十二時～十七時

九月六日(土) 九時～十六時四十分

会場 青森県立保健大学

青森市浜館字間瀬五十八―一

大会参加費 五千元 (当日 六千元)

プログラム

一 特別講演1 講師 松木明知

「八甲田雪中行軍事件・特に第五連隊と第三二連隊による搜索活動について」

二 特別講演2 講師 新村拓

「看取りの文化とその歴史 古代から現在の介護の歴史」

三 パネルディスカッション

「占領軍GHQ公衆衛生福祉局の医療看護政策と現在への影響」

ライダー 島崎玲子(青森県立保健大学)

川島みどり(日本赤十字看護大学)

平尾真智子(東京慈恵会医科大学医学部看護学科)

木村哲也(神奈川大学大学院)

四 研究発表

【口演】

①創設から占領開始前までの日本・アメリカ・国際赤十字の歴史的推移

―GHQ公衆衛生福祉局の連携組織となった要因を探る―

城丸瑞恵(昭和大学)

②本土復帰前の沖縄における看護関係法と本土法との比較

大嶺千枝子(沖縄県立看護大学)

③沖縄の男性看護職の歴史と現況

仲本勉(沖縄県立南部病院)

④瘡神社周辺の水浴と痘瘡

松原登志子(大分県立看護科学大学)

⑤介護職の資格制度の成立過程とそれに伴う介護職と看護職の業務上の重複発生経緯の検証

庄司幸恵(仙台大学)

高橋みや子(山形大学)

⑥兵庫県における看護婦養成の歴史的研究

山崎雅代(川崎医療福祉大学)

⑦栃木県における高等学校衛生看護科創設から閉科に至る経緯の検証

齋藤千鶴(山形大学)

⑧慈善事業家から見た京都看護婦学校と同志社病院における看護の状況

―石井十次日誌明治35年を中心にして―

徳川早知子(滋賀医科大学)

⑨看護学生組織の変遷とこれから

坪田康祐(慶應義塾大学)

多田恵美子(東海大学)

【示説】

①日本の看護歴史関連史料の専門的基盤整備のための調査結果

―看護婦等学校養成所を対象にして―

福本恵(京都府立医科大学)

②京都看護婦学校の教育施設について

―建設計画から完成までの経緯に焦点を当てて―

竹中京子(大阪府立看護大学)

③被占領下における看護改革政策の青森県への波及

